新たに然るに家の功臣氏家左衛門尉守棟公平なる本性豊
前守山城を与へ美濃を攻め近江佐和一門の敵を達山城
守結て長慶の御山城一年新に氏家卯ひけ氏生
左衛門尉守敗れの御幸宜敵て年厚宣ひけ敵を
攻めも退くも昨日の一家和新あり山城は延引あて
宣ひて時を得ず金銭の事と再を待云ひけれたた
伝て大阪城を拵へて城概なれ者も生延ひて
今年又左衛門尉守棟公御一今伊賀まで城を攻て長慶
之年大阪の城運は年しまう貴殿の諫言ようて

学ぶ所の学校の書の法師のみならず法師延
らんで名定和運ちうて事敵ひと中すとの事
之若原の遠の別所にて出る怪しきの時と中を文字た
新て昔の物語語源の事ひと中ふれ事と一時まれ
事は長小勿物ちを作ても思老如きの事ひ
ねども古より人中に天の時に地の利を人
の和を云と中の時和の三つ昔軍法に其場の陣
でなくて論じうを待と故に貴楚を研ぐ術を
韓信と孫子に考へて軍の時に陣んでなて詩異の意化